

季刊 ジャネット Ja-Net

View from the Other Side	3
あちこち日本語ご紹介 [長野県 佐久市]	4
あちこち日本語ご紹介 [イラン テヘラン]	5
教材紹介 『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身・ボイス・』	6
『完全マスター 1級 日本語能力試験読解問題対策』	7
『みんなの日本語初級 ・ 会話ビデオ』	7
なんでも情報BOX	8

Ja-NetはJapanese Networkの略です。[こほんご]を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーイーネットワーク

巻頭寄稿

日本語教育と日仏友好の関係

天理日仏文化協会長
パリ・天理日本語学校長
岩切耕一



ショッキングなフランス人の日本語離れ現象

昨年3月30日付で国際交流基金から発行された日本語教育機関調査(1998年実施)の結果報告書を開いてみてびっくりしたことがある。日本語学習者数が世界で13番目の国フランスは、学校教育以外の機関で日本語を学ぶ人が、前回1993年の調査結果とくらべて、何と49.5%も減っているのである。

びっくりしたというのは、実はこの数字に対してではなく、私事で恐縮だが、パリ・天理日本語学校が正しくぴったりとこの報告書と符合していたからである。「ああ、やっぱりそういうことだったのか」という訳である。

1971年開校以来の校難(?)は、突然、1993年9月の新入学期にやってきた。初級クラスの新入生が一気に半減、それからというもの9月と2月の新入学期毎に減少し、昨年2学期迄この傾向が続いたのである。

ひとり我校だけのことでなかったのかと合点はいったのだが気持ちが治まらない。それでいろいろ考えてみた。

まず、フランス人の日本語離れとはどういうことなのだろうか。

同報告書によれば、初等中等教育機関では学習者は54.2%増、高等教育機関でも44.7%増となっている。ということは、フランス教育省の政策が変わった訳ではない。日本語離れを起こしたのは一般社会人、言わばフランス人の大人達なのである。他人の意見に左右されることのまずない国民性である。日本語離れは、フランス人の大人達一人一人の明確な意思表示と受けとめなければならない。これはゆゆしきことなのである。

さらに、同報告書によれば、学校教育以外の機関で、日本語学習の目的は、就職など実利志向が弱く、圧倒的一位で日本文化に対する関心があげられている。フランスでは、日本語離れは日本文化離れを意味するのである。学校教育で、機関や学習者が増加しているからといって安閑とはしておられない、まず

まずもってゆゆしき事態なのである。

学校教育以外の機関の日本語学習者数は、日仏友好のバロメーター

90年代、日本の政治は混迷の極に達し、バブルの崩壊とともに日本経済は破綻、そんな病める日本を象徴するかのようになり、95年東京で地下鉄サリン事件が発生した。一方フランス側も欧州統合への困難な道を歩みながら、国内に300万人を越す失業者をかかえていた。両国の関係の冷え込みは、95年96年2度にわたるフランスの核実験が発端ではなかったろうか。親日家として自他共に認めるシラク氏が大統領に選出された途端のできごとであったのは残念なことであった。

フランス人の日本語離れをストップするには、何はさておき日本の再建が大前提となるのだが、様々な分野で、できることから日仏間の交流を計ることが急務ではなからうか。

御承知の方も多いと思うが、97年4月から98年3月迄「フランスにおける日本年」が幕開けし、日仏友好団体が中心となってフランス全土で日本紹介のイベントが持たれた。そして時を同じくして、97年

5月、待望のパリ日本文化会館がオープンした。このことがなかったら、フランス人の日本語離れにはさらに拍車がかかっていたに違いない。パリ日本文化会館のおかげで、



昨年、パリの中心、シャトレ地区に移転、開校30周年を迎えたパリ・天理日本語学校

パリ市民の日本理解は飛躍的に進んだのではない。今日では、そんなパリ市民の間に、再び静かな日本ブームが起きている気配さえ感じられるのである。

今年の5月19日、在仏日本大使館広報文化センターは、フランス全土から約80の日仏友好団体を招いて会合を開いた。席上、主催者側が強調したことは、地方との関係強化であった。静かな日本ブームを、パリから地方へ広げようという意図を感じた。フランス国内で、官民一体となって日仏友好の絆を強くしようとする努力こそ、今最も必要である。日本語離れをストップする最善策であることは言うまでもない。裏返しに言えば、学校教育以外の機関にどれだけの日本語学習者が集まるかは、日仏友好のバロメーターでもあるのである。



日仏友好のバロメーターでもある日本語クラス

それでもやりたい漢字かな文字学習

最近気になる話が2つある。1つは「英語第二公用語論」1つは「日本語ローマ字化論」である。国際日本文化研究センター所長河合隼雄先生（当時）は、国際日本語普及協会発行のアジャルト誌23号の中で、英語第二公用語論を昨年1月、小淵総理（当時）に提言することになったいきさつについて少しふれている。一方、日本ローマ字学会会長梅棹忠夫先生は、昨年6月天理市民会館で開かれた天理大学主催の講演会で、「言語と文明 世界語としての日本語を考える」と題して、ローマ字化の必要性を強調した。お二人とも21世紀の高度な情報化社会に、日本が外国と対等に渡り合うための策を講じようとしておられるのだが、一方は英語という外国語を導入してやろうとし、一方はあくまで日本語でやろうというものである。

先程の報告書によれば、過去19年間に海外の日本語学習者は16.5倍も増えているのだそうだが、93年から98年の5年間の増加率は、わずかに29.5%である。98年現在の学習者総数は全世界で210万人となっているが、誰にきいてもこれは少ない数だと言う。梅棹先生は、明らかに漢字がプレーキとなっていると指摘している。「文字だけを世界共通の文字体系におきかえたら、日本語はたちまち国際語、あるいは世界語になります」「今日の文明社会で活動するためには、和服でなく洋服を着なければなりません」という御指摘は魅力的であり説得力もある。

一度試しにやってみたらどうだろうと思って学生に聞いて回ったところ、個人レッスンのビジネスマン以外、誰一人ローマ字表記でやりたいという者がいない。むずかしくても漢字かな

を学習するから日本文化を感じるのだと言う。どうやら日本語教育をフランスにいったんに広げる特效薬はなさそうである。

幼稚園児から大人までの一貫した日本語教育をめざして

学校を運営するものにとって一番うれしいことは、学生が日本語を上手に話せるようになることである。しかしこれがなかなか簡単ではない。30年間大人を対象にやってきて切実に思ったのは、小さい時からの日本語教育が不可欠だということである。それで今年4月から週1回、小中学生対象のこども日本語講座を開設することになった。国語教育コースと日本語教育コースに分かれており、現在30名程のこども達楽しく日本語を学んでいる。受験塾ではない国語教育を特徴にしているので、日仏家族の子弟が多い。こどもは全員パリの現地校に通っている。将来そちらの勉強が大変になり挫折することももてくるだろうが、できるだけ長く応援してやりたいと思う。そのために学校と親が協力しながら、こども達に日本に対する興味を持たせ、日本が好きになるよう愛情をもって心配りをするのが大切ではないかと考えている。こども日本語講座を始めてみて、やはり幼稚園児からスタートしなければだめだという意見がでてきた。近い将来、幼稚園児から大人までの一貫した日本語教育の体制が整う予定である。

パリ・天理日本語学校は、昨年2月長年住みなれたモンパルナス地区からパリの中心、シャトレ地区に移転した。また95年に着手した、教材やクラス編成の改革が、今年7年目にしてようやく終了する。そして、ここにきて学生が急に増えはじめたことが何より嬉しい。今年、開校30周年を迎えたパリ・天理日本語学校は全てが新たな出発点を迎えることになった。今から先の道はまだまだ長そうであるが、パリで日本語教育を推し進める意味が、ようやく何か少し見えてきたように思う。



今年、4月に開設されたこども日本語講座。幼稚園児から大人まで一貫した日本語教育の体制を目指す

岩切耕一

1948年宮崎県生まれ。1973年広島大学文学部英語学英文学科卒業。1976年～77年天理日仏文化協会職員として勤務、1983年同協会の職員として再渡仏、1986年同協会会長に就任。1991年国際交流基金、在仏日本大使館の支援を得て、日本語教育推進を目的に、エキスポラング（パリ言語博覧会）にはじめて日本スタンドを出展。1998年フランスにおける日本年期間中、エキスポラングに、日本がテーマ国として招待され、実行委員会「エキスポ・ジャポン98」事務局長をつとめる。



このコラムでは 学習者の視点での話題をお届けします

VIEW FROM THE OTHER SIDE

日本語で会話できるのはとても気持ちのいいこと

夏坂カルロス



私がコロンビアから来日しての生活は約3年たち、今ではいろいろな人と日本語で話すことができるようになりました。しかし、やはり最初日本語を習い始めた頃は、とても苦労しなければいけないことがたくさんありました。

例えば、学校で友達のみんなは、楽しく昨日のテレビでやっていた番組のこととか、今日の宿題についてとか、いろいろな楽しい話をしていた時、自分は笑って理解できていると、みんなに思われるようにしていたのですが、本当は何を話していたのかぜんぜんわかっていなかったのです。また授業を受けていた時にも、先生が説明していたことがあまり理解できなかったこともあります。そのことは本当に悔しいことでした。

その当時は「早く日本語を話せるようになりたい」としか頭に入っていませんでしたが、やはり最初の頃は、日本語はとても難しいものでした。なによりも、コロンビアから来た私にとって、日本語の文字は複雑に感じられました。従って、「読む」「書く」より「聞く」「話す」ことから、日本語に慣れていきました。「話す」ことで大切なことは「気持ち」だと思います。何かを伝えたいという強い気持ちがあれば、言葉だけでなくジェスチャー等でも補うことはできます。例えば、私はスポーツが好きなので、同級生とサッカーの話題から、話すことを始めました。また「聞く」ことでは、テレビをよく利用しました。日本のテレビアニメはコロンビアでも放映されていたので、親しみやすいものでした。

しかし、「読む」「書く」ことは簡単でなく、日本の学校の授業では国語、社会の授業の中で、漢字がいろいろな形で出てくるので大変です。また「が、に、へ」等の助詞の使い方も難しいものでした。そういうこともあって、時々「自分には日本語を話すことは無理じゃないかな」と思ったこともありました。しかし、私はあきらめませんでした。なぜかという、私の母がいつもこんなことを言って私を支えてくれたからです。

「自分で始めたことは最後までやり通すのです。ぜったいあきらめてはダメ。自分が本当にやりたいと思えば、必ずできるようになります」という言葉が、私にとって支えとなってくれたのです。自分が本当にやりたいと思う気持ちが大切だと私は思い、その言葉のおかげで、今では日本語を上手に話せるようになったと思うのです。日本語で会話できるのはとても気持ちのいいことです。

私は、人間はみんな同じだから、努力をすれば、何でもできると思います。例えば赤ちゃんは、まだ歩けなくても、自分で

立ちあがって、一歩歩き、
また倒れても、あきらめないでまた立って今度は二歩歩き、そしてだんだんと慣れてきて、10歩、20歩、そして歩けるようになるまで、がんばるんじゃないですか？そんなふうに、日本語も自分でしっかりした気持ちを持って勉強してがんばれば、誰でも話せるようになるのではないかというのが、私の考えです。



今では、私は最初の頃に比べてとても上手に日本語を話せるようになりました。きっと数十年後にはもっと上手に話ができると思います。しかし、私が死んだら一生懸命勉強したこの日本語も死ぬということになるでしょう。そうなったらとてももったいないことだと思います。そのためにあることを考えました。それは、私の生まれた国、コロンビアの人達に、一人でもいいから日本語を教えたいのです。そして私が教えた人はその後別の人に教えて、その後また別の人へと、そのようにして日本語を話す人が増えてほしいのです。そうしたら、日本とコロンビアの間にはかけ橋みたいなものができて、お互いの国が助けあいながら、自分達の文化や技術を学びあい、尊敬しあう良い関係になるのではと心から強く思っています。

また、日本語は日本でしか話されていない言語なので、とてももったいないと思います。日本が他の国に自分の文化を伝えたり、交流したりするためには同じ言語を使う方が、お互いによく理解できると思います。

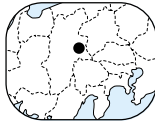
こんなふうに日本語から、日本と世界の交流をもっと深めることが、平和な世界を作るための大きな一歩になるのではないのでしょうか？

夏坂カルロス

1986年コロンビア共和国メデジン市生まれ。小学校4年生のとき、コロンビアより家族と共に来日。約1年滞在后、家庭の事情で、再びコロンビアに戻る。中学1年生1学期に再来日。武蔵野1中に入學。今春、都立田柄高校へ入學した高校一年生。

あちこち日本語ご紹介

国内編



長野県
佐久市

すずらの声

すずらの会
春原直美

浅間山を北に仰ぎ、南にハケ岳連峰を望み、千曲川の清流が流れる長野県佐久市は、県の東部に位置します。佐久地域の外国籍住民は、中国からの帰国者とその家族、日本人の配偶者、就労者、企業研修生等が多く居住しています。

【日本語教室の誕生の経緯】

「子どもの持ってくる学校・幼稚園のお便りを読めるようになりたい、返事が書けるようになりたい」という外国出身の母親の願いを叶えるお手伝いをするため、ボランティアによる「日本語教室・すずらの会」が1994年（平成6年）3月誕生しました。

【教室の理念】

日本人と結婚し家庭を持ち、地域に定住しようと考えている外国籍配偶者が主たる対象です。日本の文化・生活地域の文化と学習者の母国の文化をミックスし、心豊かな家庭生活を築いていくこと、その子ども達を、やがてこの地域を力強く背負って立つ人材に育て上げる基礎を体得してもらうことをスタッフ共通の願いとしています。

【8年目】

教室活動は毎週土曜日の午前10時から11時30分、佐久市生涯学習センターを会



8年目を迎えた日本語教室。教室の理念を実践していく基本活動である

場に行っています。この4月に8回目の開講式を行い、本年度学習者40名（居住地：10市町村、母国：5カ国）が、日本語の習得度合いに応じて5クラスに分かれ、ボランティア26人と学んでいます。学習者は母親が多いことから、ボランティアは学習指導（21名）と託児（5名）を分担し、母親が日本語を学ぶ間、小さな学習者達も、託児スタッフや周囲の人たちとのふれあいを学んでいます。

【日本語学習支援】

私達がお手伝いできることは、来日まもない人たちには日常生活の中での「聞く・話す」こと、日常会話ができるようになった学習者には学校からのお便りも含め小学校中学年程度の「読む・書く」こと、「日常生活での習慣」など学習者の「学びたい・習得したい」という思いに応えることです。スポット的にスーパーマーケットでの買い物の仕方や市の担当者に出張していただき「救急・心肺蘇生法」「ゴミの出し方」など母親・主婦として必要なことも授業に取り入れています。

【最近気になること】

日本で生まれた子ども達は年齢に従い日本語を自然に習得しますが、母親達の日本語の習得はゆっくりです。また南米から就労で日本に来た家族の中で、子ども達は日本語を急速に習得する反面、母語を忘れていき、どちらの場合も親子の会話にギャップが生じているのが現実の問題になっています。呼び寄せ家族も増え、就学適齢期の児童・生徒の言葉の問題も深刻化しています。

【課題】

学習者にとって「すずらの会」は、確実に「ふれあいの場・憩いの場」となっています。日本語学習支援の場としての今後の課題は、彼女達が学びたい日本語を可能な限りきめ細かく指導すること、そのために、学んだことをゆったりとしたスパイラル状に積み上げられる指導法を作っていくことだと考えます。



学習者とスタッフが、互いに得意の料理を持ち寄り「ふれあい・相互理解」の交流を行う

【支援者としての喜び】

周囲の日本人と意思の疎通ができるようになると、彼女達はドンドン社会に進出し仕事を持ちます。彼女達の生活の中で日本語を学ぶ優先順位は後退し、教室から遠ざかっていきますが、私達スタッフは彼女達の社会への進出を嬉しく思っています。地域に日本語を学びたい人がいて、私達スタッフも日本語学習支援の機会をいただきました。お蔭様でという気持ちを忘れずに、我々も彼女達から多くのことを学びたいと思います。

『すずらの声』は、毎年度終了時に学習者とスタッフが綴り発行する文集のタイトルです。昨年、2000年度で通算6号となりました。

「すずらの会」お問い合わせ先
春原直美 E-mail: yuuyu@janis.or.jp
385-0022 佐久市岩村田396
TEL/FAX: 0267-68-0154

あちこち 日本語 ご紹介

海外編



イラン
テヘラン

より開かれた国をめざすイランでの日本語教育

テヘラン大学
山口明

「厳しいイスラム教の国」イランの日本語事情を報告したいと思います。イランはご存知の通り、イスラムの教えに従い、女性は外出時にはコートやスカーフを着用しなければなりません。また、学校も男女別クラスです。しかし、最近緩やかにではありますが、自由な雰囲気が広がりつつあるのです。街中にも、ジーンズやスニーカーをはいたり、きれいに化粧した学生も増えてきました。3年前に私が赴任した時より、テヘラン大学外国語学部のキャンパスはずいぶん明るくなった印象があります。

テヘラン大学では一般学習者向けに日本語の公開講座も行っていますが、その受講生の中心になっているのが、日本で数年間働いていて帰ってきた男性達です。かつてのビザ相互免除協定によって最高時で4万人のイラン人が日本に滞在していたといわれています。実生活で身につけた「自然な」日本語の会話力は抜群で、テヘランの街を歩いていると、そういう人達から日本語で話しかけられることも少なくありません。イランでの日本のイメージは悪くなく、イランでも放映された日本のドラマ「おしん」のおかげで、妻には至る所で「おしん」と親しみの込

もった声がかかることもあります。

テヘラン大学の日本語日本文学科(以下、日本語学科)の新生は、日本企業への就職、留学などの希望を持って入学してきます。しかし、日本語を使った仕事というのは、国営ラジオ局、旅行ガイド、通訳、翻訳ぐらいで、それもアルバイト程度の仕事で、定職というには程遠いのが現状で

す。日本語学科からの留学もまだ始まったばかりで、2年前からこれまで、日本語日本文化研修留学で2人、研究留学で2人が日本へ渡ったにすぎません。

教師はイラン人、日本人合わせて7人ですが、大きな課題の一つとして、「イラン人スタッフの育成」が挙げられます。現在は、まだ修士以上の学位を持ったイラン人教師がいないのです。また、日本へ送り出した学生が、修士課程、博士課程を修了してイランに戻り、教壇に立つまでにはまだしばらく時間がかかると思われます。

授業の使用教材で、初級教材は『みんなの日本語』です。授業には『新日本語の基礎 復習ビデオ』もテキストの進行に合わせて使い、好評です。『新日本語の基礎』から応用できる教材、教師用解説等が多いのもこのテキストの利点です。『日本語の教え方の秘訣』を参考にしながら、新任の非常勤講師には先輩教師の授業を見学してもらい、その後はミ



ビデオ(『新日本語の基礎 復習ビデオ』)教材を活用する授業風景の一コマ(中央は筆者)

ーティングで問題点や疑問点を話し合うようなことも行っています。これら初級レベルの整備とともに、今後は中上級のシラバスの見直しが課題です。

また、教室以外で日本語に触れる機会が少ない環境を補うため、日本人の留学生をゲストに招いて学生達と話してもらったり、日本人学校の生徒たちと交流する機会を設けたりしています。インターネット、Eメール、衛星放送テレビの利用も今後期待できるでしょう。さらに学生たちによる日本語学科ホームページの作成も企画されています。

今年6月8日の大統領選挙で、改革派のハタミ師が97年の初当選時を超える得票率で再選されました。世界の中のイランを重視した彼のスローガンは「文明間の対話」です。それにちなんで「文明間の対話センター」でも、日本語、日本文化の講座が開かれる予定です。

イランにおける日本語教育はまだ始まったばかりですが、より開かれた国をめざす動きに十分に貢献できる活動であり、今後の発展が期待できるところで



かつてと比べ、自由な雰囲気が感じられるようになったテヘラン大学外国語学部キャンパス

教材紹介

『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身 - ボイス - 』(上級)
『完全マスター 1 級 日本語能力試験読解問題対策』
『みんなの日本語初級 ・ 会話ビデオ』



『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身 - ボイス - 』(上級)

安藤節子

1. 「文法は初級で終わり」って本当？

「自動詞・他動詞、受身、敬語、指示詞など日本語の基本的な文法項目は初級のテキストにその殆どが登場している。だから、日本語の文法項目の勉強はそこで終わり、中級からは「～にもかかわらず」「～する一方」「～ないことには」などのような表現文型を学ぶのが文法である」というのは本当でしょうか。受身を例にして考えてみましょう。

1 - 1 . 初級で習う受身

初級では、教科書によって少しの違いはありますが、受身文について一般に次のようなことを習います。

動詞のフォーム：受身動詞の作り方

受身文の意味・機能：「迷惑の受身」「中立の受身」
「所有の受身」

受身文の形（直接受身、間接受身、助詞の使い方）

1 - 2 . 中上級で必要な受身

次に、その後中上級に進んだ学習者にとってのポイントを拾ってみましょう。意味が通じるかどうかではなく、文脈での適切さが問題になります。

主語の統一による自然さ（1 . は学習者が産出）

1 . ? 友達が旅行に行こうと私を誘ったが、暇も時間もないので断った。

文体による適切さ（2 . は学習者が産出）

2 . ? 庭で蜂によって刺された。（日常の話しことば）

「影響を受けた」ように表現する

3 . 悩みごとがあっても、何かに集中していれば救われる。

実際には「救った」人（こと）は存在しなくても話し手がそのように認識して受身を使っています。

類似表現との使い分け

4 . この企画案はリスクが大きいと判断する / 判断される / 判断されている。

レポートなどを書く場合に、このような似かよった表現を使い分ける必要も出てきます。

1 - 3 . 中上級でも文法学習が必要！

新聞や書物を読むことができる上級学習者が「わからない」

というのは、文章を書くときなどに、それぞれどんな場面で受身を使ったらより適切か、より自然な日本語になるのかを知りたいということです。「なぜ受身なのか」受身文を使っている理由を理解して微妙な使い分けができるようになりたい、と上級学習者は望んでいるのです。

中級・上級の学習者のこうしたポイントは、初級で勉強した範囲では解決できません。学習者の独習に任せるのではなく、教師が適切に簡明に解説・説明するべきでしょう。ですから、「文法は初級で終わり」ではなく、例えば受身についても中級・上級の段階に応じて螺旋的に学習を積み重ねていく必要があるのです。

2 . ルールを導き出しながら解く

1 - 2 . で見たようなことからについて、教師や教材が一方的に全て説明してしまうのも1つの方法ですが、自分で理由を考えそのルールを導き出す方が学習者の「腑に落ち」て、より効果的です。この教材では、「問」に答えながら、どのようなルールがあるのか考え、それを「まとめ」で整理し、それに基づいて「練習」をします。さらに、「総合練習」「総合演習」のところで、新聞、雑誌、書物といった生の文章の文脈で使い分けを練習します。

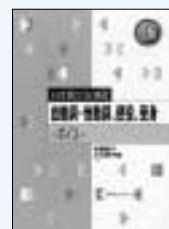
3 . 文法は「便利な道具」

『自動詞・他動詞、使役、受身 - ボイス - 』は「日本語文法演習」シリーズの第1冊目として出版するものです。

この本で学んだ方には、文法は、その知識自体を知るのが最終目的ではなく、場面や文脈に合ったより自然な文章を産出するためにたいへん「便利な道具」であるということがわかりいただけることと思います。

『日本語文法演習
自動詞・他動詞、使役、受身 - ボイス - 』(上級)

B 5 判 88頁 1,300円
安藤節子・小川誉子美著



完全マスター1級 日本語能力試験読解問題対策

B 5判 120頁 1,300円
草野宗子・村澤慶昭・牛米節男編著



みんなの日本語初級 会話ビデオ

NTSC方式 40分 45分 各10,000円
スリーエーネットワーク編



『完全マスター1級 日本語能力試験読解問題対策』 読解スキルの養成と、各種の文章を読みこなすために

早稲田大学国際部 / 専修大学国際交流センター 非常勤講師 草野宗子

日本語を学習する人が増えている中で、日本語能力試験を受験する人もたいへん多くなりました。そのような学習者のために、本書は日本語能力試験の問題をもとにして、読解力をつけることを目標に作成しました。この中には、二種類の練習を設けてあります。その一つは「短文編」で、ひとまとまりの内容を持つ段落一つ分くらいの短い文を読みます。問いの形式別に指示語、言葉の穴埋め、部分の並べかえなどの七つのステップがあります。もう一つは「長文編」で、700～1900字程度の長い文章を読んで6～7問の問いに答える練習です。文章の種類は説明文、論説文、随筆、小説、対話など幅広く、学習者の皆さんも興味を持てる内容だと思います。長文編の問いは短文編の問いのパターンに対応しているので、練習したいステップに戻って練習することもできます。

この本の使い方について例をあげてみましょう。まず、「はじめの5題」で総合的な問題をやってみます。解答をチェック

して、自分の弱点を分析します。問いの形式は短文編の各ステップに対応していますので、それぞれのステップの練習で力をつけましょう。次に、長文編の各種の文章を読んで問題を解く練習をします。さまざまな内容の文章がどんなジャンルの文章か見極め、それに合った読み方をマスターしてください。別冊「解答集・解説」にある長文問題の解説で、解き方のコツや、問いの要点などをつかんでください。最後に「確認問題」で練習のまとめと確認をします。

ここでは代表的な例を紹介しましたが、「はじめの5題」で読解力の自己分析ができたなら、あとは集中的に苦手な問いの形式を練習したり、取り組みたいジャンルの長文を読むなど、自由なやり方で使うことができます。この本は「日本語能力試験問題対策」というタイトルですが、上級の読解力を身につけたいという人にも十分役に立つ教材だと思います。

『みんなの日本語初級 ・ 会話ビデオ』 会話場面・状況の導入から映像情報による学習活動の展開へ

スリーエーネットワーク 教材開発部

このビデオ教材は『みんなの日本語初級 ・ 』全50課の「会話」を、本冊における位置付けと目的・意図に従って映像化したものです。会話の場面・状況が映像で提示されることで、各課の会話の導入がスムーズになり、映像に収められた様々な情報が、教室での学習活動の展開をより活発にします。

ビデオではアメリカから来た主人公や外国人登場人物が、それぞれの環境で日本人と日本語で話し、交流しながら、積極的に活躍する場面を展開します。学習者は映像を学習の対象として観察するだけでなく、登場人物と共に、各課のストーリーを共有し、緊張したり、喜んだり、笑ったりしながら、日本語学習に対する意欲を更に高めてくれます。

1. 制作の意図

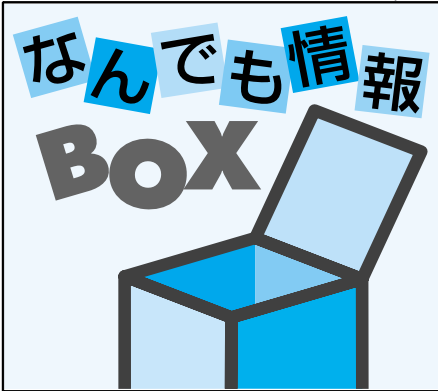
- 1) 各課で学ぶ文型・語彙・表現が実際の会話場面でどのように機能するか、映像の中で確認させる。
- 2) 会話の内容だけでなく、話し手と聞き手の関係、その場の雰囲気なども観察させる。
- 3) 日本人の行動様式、非言語行動や作法・ふるまいにも注目させる。

- 4) 日本事情(都市・職場・学校・家庭・地域・日本文化・習慣・風物・年中行事・季節など)を積極的に盛り込み、紹介する。

2. 教室活動のヒント

- 1) 導入時に「消音画面」をまず見せ、場面・状況からどのような会話が行われるか、学習者に推測させる。
- 2) 応用力のある学習者には、「消音画面」や「静止画面」に学習者自身を登場させ、応用会話をさせる。
- 3) 系統的学習が苦手な学習者に対しては、各課の「会話」で提出される表現をキーワードとして映像と共にキャッチさせ、場面に密着した表現として理解させる。
- 4) 各課の場面に関連して、素材としても豊富な情報を収録している。様々な場面・状況の映像は文型の導入に利用できる。

以上のほかにも、学習者に応じての利用、特に短期集中でまとめる日本語初級の復習教材としても効果的です。内容豊富な『みんなの日本語初級会話ビデオ』で、学習者が実際の生活で生かせる総合的な会話力が養われることを期待しています。



セミナー SEMINARS



『みんなの日本語初級』を使った初級日本語の教え方
 今回は九州の日本語教育機関のご協力を得て開催することになりました。

日時：9月8日(土) 13:30 - 16:30
 講師：田中よね(教科書執筆協力者)
 会場：百道パレス(福岡市)小ホール
 TEL:092-851-4511
 交通：地下鉄・藤崎下車 徒歩3分
 定員：150名(定員になり次第締め切ります)
 申込締切：8月31日
 参加費：九日連会員200円、一般500円(当日納入)
 申込み：住所、氏名、電話番号、区別(九日連会員か一般か)を明記の上、ハガキにてお申込み下さい。
 問合せ/申込み先：進はじめ
 〒811-3221福岡県宗像郡福岡町若木台1-5-11
 (自宅) TEL&FAX:0940-42-6077
 共催：九州日本語教育連絡協議会(九日連) スリーエーネットワーク

初心者のための『みんなの日本語初級』、『新日本語の中級』の教え方
 『みんなの日本語初級』、『新日本語の中級』の講座を小社で開講いたします。これから日本語を教えてみたい方、教え始めたばかりでどうしたらいいか考えている方、ご参加下さい。

日時：『みんなの日本語初級』
 9月3日(月) 4日(火) 6日(木) 7日(金)
 『みんなの日本語初級』
 9月10日(月) 11日(火) 13日(木) 14日(金)
 『新日本語の中級』
 9月17日(月) 18日(火)
 (時間はともに 14:00 - 16:30)
 講師：清水澄子(スリーエーネットワーク日本語講師)
 会場：小社教室(東京都千代田区神保町1-6-4)
 定員：各10名 費用：15,000円 7,500円
 問合せ/申込み：スリーエーネットワーク講座係
 TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197
 E-mail: ja-net@3anet.co.jp
 講座案内をご請求下さい。

ほん

BOOKS

本誌に表示した価格は税別です。

みんなの日本語初級 会話ビデオ	発売中	各10,000円
みんなの日本語初級 絵教材B4判(仮題)	9月発売予定	価格未定
みんなの日本語初級 初級で読めるトピック25	発売中	1,400円
書いて覚える句型練習帳	10月発売予定	1,300円
漢字英語版	10月発売予定	1,800円
教え方の手引き	10月発売予定	2,800円
新日本語の基礎 CD	9月発売予定	価格未定
新日本語の中級 分冊中国語訳	発売中	1,700円
中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック	9月発売予定	2,400円
トピックによる日本語総合演習 中級前期	~テーマ探しから発表へ~	
トピックによる日本語総合演習 中級後期	~テーマ探しから発表へ~	
	8月発売予定	各1,500円
日本語中級J501 中国語版	9月発売予定	2,800円
日本語中級J501 韓国語版	9月発売予定	2,800円
完全マスター1級 日本語能力試験読解問題対策	発売中	1,300円
日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身	ボイス 発売中	1,300円

お知らせ INFORMATION



『新日本語の基礎』編著者の(財)海外技術者研修協会(AOTS)が、日本語学習支援を目的に日本語ホームページを開設しました。内容は AOTSの日本語教育 AOTS日本語学習用コンテンツ リンク 日本語フォントの説明、から構成され、インターネット上から日本語習得度や学習進捗度を即座に診断できる「AOTS日本語テスト」も入っています。ぜひ、ご覧下さい。

HPアドレス <http://nihongo.aots.or.jp>



皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させて頂いた方には粗品を差送いたします。本誌をご希望の方は、お名前、ご住所、所属をFAX等で編集室までお知らせください。無料でお届けします(国内のみとさせていただきます)。
 『Ja-Net』第19号は2001年10月25日発行予定です。

スリーエーネットワーク 社員募集のお知らせ

1. 職務内容：日本語教材の編集及び企画
2. 応募資格：日本語教育学、日本語学もしくはその関連分野の教育を受けた者(大学院修士課程修了、学部主専攻または副専攻課程卒業、420時間以上の日本語教師養成コース修了など) 日本語教師経験者(2年以上の経験があることが望ましい) 年齢30歳くらいまで
3. 採用予定日 2002年1月から勤務できることが望ましい(応相談)
4. 待遇：正社員(3カ月の試用期間有り) 給与その他/当社規程による 勤務時間 月曜日~金曜日/9時~17時15分 休日/土曜日、日曜日、祝祭日
5. 応募方法：履歴書(教師養成受講歴、教育経験を含む)及び応募の動機(1000字程度)を当社、総務部宛郵送
6. 応募締め切り：2001年9月30日
7. 選考方法：書類選考後、面接を行う(日時は追って通知)。場合により筆記試験あり
8. 書類提出先：〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル 株式会社スリーエーネットワーク 総務部宛 (封筒表に「応募書類」と朱書きのこと)
9. 問い合わせ先：株式会社スリーエーネットワーク 総務部 メールアドレス soumu@3anet.co.jp

Ja-Net 季刊ジャネット No.18

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2001年7月25日発行
 発行人 小川 巖
 発行所 (株)スリーエーネットワーク
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
 Ja-Net編集室 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197
 営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195
<http://www.3anet.co.jp> E-mail: ja-net@3anet.co.jp
 日本印刷(株)
 © 2001 by 3A Corporation Printed in Japan(禁無断転載)